

第2610地区 富山第4グループ ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2610

Rotary 高岡西ロータリークラブ



ロータリーは
機会の扉を開く

2020-2021年度 国際ロータリーのテーマ

2020-2021 ■会長 安川基一 幹事 中川眞彦 ■クラブ会報・広報・雑誌委員会 広上利晴 沖 昌幸 阪口政博 大原弘之

No.2120

第2581例会 2020年10月4日(水)

今年度第10回 於：高岡商工ビル10F

SAA：古本恭三

◇開会点鐘

◇国歌斉唱 君が代

◇ロータリーソング 奉仕の理想

◇安川会長挨拶

秋冷の心地よい季節となりました。食欲も益々旺盛になっております。皆さんはいかがでしょう？

さて、私ごとですが、先日定期健康診断に行っ
て参りました。例年通り「太りすぎです。あなた
に出せる薬はありません。痩せることが一番の薬
です。体重が減りさえすれば、血圧等数値の問題
はほとんど改善されます。」と医師からの説明が
ありました。そこで翌日より食事においては糖質
制限を開始し、炭水化物は取らないように、飲酒
は週末のみにし、夜時間があればジムで汗を流す
ことを心がけて約1か月が過ぎました。その結果、
体重約4キロダウンしました。

このことをジムのインストラクターに話すと、
「このような食事制限等は生涯続くものでは無い
でしょう。無理なく行うことをお勧めします。こ
のやり方はリバウンド起こします」とのことです
た。人間飲食することが一つの楽しみでもありま
す。その楽しみを奪われたのは今迄不摂生な生活
に問題あったからでしょう。会員の皆さんも是非
気づけてください。美食家の皆さん美味しいもの
ばかり食べていると身体によくありませんよ。

本日のプログラム

会員卓話：小竹由則 会員
富山新聞社高岡支社 北山弘幸 報道部長
「報道の話・新聞業界について」

◇会長報告

- ・次々年度会長指名委員会発表（敬称略）
島、在田、山田、松田、沖
- ・友好クラブ台湾花蓮RC近況報告

◇幹事報告

- ・例会プログラム、変更について
- ・諸冊子配布の報告

◇委員会報告

→出席報告（会員数45名）

出席者： 39名（MU済み：4名）

出席率： 100%

◇プログラム

会員卓話：横田 純一 会員

現在、コロナ禍の影響を受けいる業界がたくさんありますが、今回は飲食業界に通じる横田会員より、自粛ムード中の様子についてお話頂きました。

特に、ホテルや交通機関をはじめとする観光業、居酒屋・レストランなどの飲食業についての変化を細かく説明して下さいました。



今後の予定

- ◎10/25(日) 早朝清掃例会 *10/28(水)を変更
集合7:00am @高岡古城公園 市民会館
- ◎11/4(水) 第1例会
Web卓話：あしたのチーム 高橋亜優様

四つのテスト

現行は是に照らしてから

1. 真実かどうか

2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか

4. みんなのためになるかどうか

◆お祝い事の報告

<誕生日祝>横田純一さん(23日)

<皆出席祝>荒井公夫さん(46)、河合雄一さん(24)、
千田敏勝さん(16)、福島清さん(12)、
網武志さん(9)、鍋嶋範和さん(5)

◆ニコBOX

安川会長「食欲、スポーツ、読書の秋です。皆さん楽しみましょう。横田直前会長の卓話楽しみます。」
中村さん、阪口さん、小竹(秀)さん、沖さん、小竹(由)さん、中川幹事、伊勢委員長より。 通算160,000ニコニコ

Rotary 高岡西ロータリークラブ 会員のひろば 「プラス思考で行動しましょう」

会員名：宮崎 甚一 (みやざき じんいち)



1979年2月 入会
《今年度役職》
クラブ奉仕委員

近況報告

●年齢相応に元気に毎週日曜日、炎天下・猛暑の中で、若者と一緒に”ヘボ”テニスをしています。

■【これまでのロータリー活動で印象に残っている例会、奉仕活動、懇親会等があれば紹介下さい】

・台湾の花蓮RCや上田東RCと
お互い訪問し合って、良好なる
交友関係の構築を計っていることです。



■【あまり知られていない高岡のエピソードがあれば紹介して下さい】

・御車山祭の奉曳の順序は昔とは逆で、先頭が二番町で、最後が通町ではないでしょうか？送り花の桜が証拠です。



■【コロナ禍の「Stsy home」や「新しい生活様式」で自宅や会社で取り組んでいることがあれば紹介して下さい】

・コロナ禍なので、読書量、飲酒量や体重が増えて逡巡すること然り。

クラブへのメッセージ

★活力ある楽しいクラブ形式を目指して、全員一同が団結して鋭意努力していきましょう。

会員名：高島 誠 (たかしま まこと)



1978年5月 入会
2005-2006：会長
《今年度役職》
職業奉仕委員

■【その他】 “富山人社”とは

弊社が発行する月刊誌『富山人』は、今年創刊94年になりました。創刊から一貫して、全国の読者に故郷のニュースや各地の富山人の活躍を伝えてきました。しかし、高岡ではあまり知名度が無く、どんな仕事かと聞かれることが多々あり、ちょっと厚かましいことをお許し頂いて、弊社の自己紹介をさせていただきます。「高岡市史」に次のように掲載されています。

“富山人”大正15年、当市の一隅に月刊誌“富山県乃県人”(のち『富山人』に改名)が呱呱の声を挙げた。一介の青年、高島多作の創意独力によるささやかな企画であった。明治以来、報道紙は数え切れないほど現れても、政財界に有力なバックを持たない限り、うたかたの如く消え去るのが常識であったが、ひとりのこの雑誌だけは順風満帆、新しい航路の開拓に成功したのは注目値するであろう。県外に活躍する県人の消息と県下知名の士の動静を一党一派に偏らず紹介したことが内外県人に歓迎されて、未見の人々の支援が集まり、自然に組織が拡大されたのである。(中略) 昭和10年頃(昭和12年に前田家の勧めがあり＝高島追加)石川県人のために“加能人”を創刊し・・・(後略)

その後、昭和55年に法人組織にし私が社長を受け継ぎました。昭和58年に、富山県の置県100周年を記念して県知事を会長にして「全国富山県人会連合会」を発足しました。

そして、昨年5月、長男・一誠に社長を譲りました。出版業界は活字離れで不振が続く難しい時期ですが、時代に合わせITを取り入れて活字文化を守り、企業が継続すれば、あと数年で100年。これがゴールでなく、さらに進んでほしいものです。

どうぞ、皆様のご支援もお願いいたします。

クラブへのメッセージ

★コロナ禍の今、防疫と経済の両立が必要。
三密に注意を払い、早く例会で会食したいです。



2名づつ全会員を掲載致します。ご協力のほど宜しくお願い致します。